

みづまるキッズ保育・教育ビジョン

めざす子ども像 ～持続可能な社会を創る～

自ら考え判断し行動できる子ども
違いを理解し自他を尊重する子ども

実現するための3つの力

- 1 【自己表現力】 自分の意見をつくる力
感じたことを自分なりに表現する力→自分らしく表現して遊ぶ
「観て、聴いて、感じたこと、考えたことを自分らしく表現する力」
- 2 【課題探究力】 チャレンジする力
学ぶ力→自分なりのこだわりを追究して遊ぶ
「自分なりに考えたり、試したり、工夫したりするなど、積極的に多様な関わりを楽しむ力」
- 3 【社会参画力】 他者を意識する力・人を大切にする力
人と関わる力→友だちと一緒に工夫しながら遊びを深める
「愛情や信頼感をもち、互いの思いや考えなどを共有し、協力して一緒に活動を楽しむ力」

各保育所・幼稚園・小学校・中学校における
校 園 所 の 保 育 ・ 教 育 目 標

すべての保育者・教職員と子どもによる「対話」を通して、コンセプトを適宜考えていく

保育所・幼稚園

「みづまるキッズカリ
キュラム」の実施子どもの探究心を満たし、
自ら考え、伝えることで学
びを獲得する環境づくり

接続

小学校低学年

「みづまるキッズカリ
キュラム」の実施生活科を中心に合科的・
関連的な指導を計画的に
実施

接続

小学校中学年～中学校

みづまるキッズ教育ビ
ジョンを踏まえた取組総合的な学習の時間を中心
に探究的な学習と個別最適
な学びの一体的な推進

みづまるキッズカリキュラム

島本町教育委員会

自ら考え判断し行動できる子ども ・ 違いを理解し自他を尊重する子ども

1. 自己表現力 感じたことを自分なりに表現する力 → 観て、聴いて、感じたこと、考えたことを自分らしく表現する。
2. 課題探究力 学ぶ力 → 自分なりに考えたり、試したり、工夫したりするなど、積極的に多様な関わりを楽しむ。
3. 社会参画力 人と関わる力 → 愛情や信頼感をもち、互いの思いや考えなど共有し、協力して一緒に活動を楽しむ。

観点	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小学校1年生	小学校2年生
好奇心 興味・関心 愛着関係	好奇心 興味・関心 情緒の安定	想像力 興味・関心 他者への関心	自己発揮 興味・関心 協調性	達成感 試行錯誤 自己抑制	発想力 実行力 共感力	安心 意欲 他者尊重	自信 探究心 協働	
年齢	【3か月未満】 ・安心できる環境の中で、個々の生活リズムを整える。 ・大人に抱かれて心地良さを感し、人との信頼関係を育む。 【6か月～9か月未満】 ・身近な保育者等に親しみを強く持ち、同時に他の大人にも関心をもつ。 【9か月～1.2か月未満】 ・興味を持ったものに視線を向けたり、指差しをしたりして、言葉と一致させようとする。	・活動範囲が広がり、自然物や身近なもの、遊具に興味をもつ。 ・話しかけややの取りの中で、感情表現が豊かになり、ことばや気持ち、自分の欲求を表そうとする。 ・安心できる保育者との関係をともに、身の周りの簡単なことを自分でしようとする気持ちが生える。 ・保育者や友だちへの関心や物への好奇心を持ち、真似をしたりして、自ら関わろうとする。 ・問いと答えの関係が成立する。	・心身共に快適な生活を送ることにより、行動範囲が広がる。探索活動が盛んになる。 ・生活や遊びの中で、友だちの気持ちを察知し共感する。 ・自然と触れ合う中で、好奇心や探究心が生まれてくる。 ・基本的な生活習慣に関心をもち、自分でできる喜びを知る。 ・自分の身体の使い方がわかり、身体機能の調節ができる。 ・保育者や友だちと遊ぶ中で、自分なりのイメージを膨らませる。	・友だちの話を聞いたり、保育者に質問したり、興味を持つことばによるイメージを楽しむ。 ・生活や遊びの中で、文字や数、図形や重等に関心を持ち、いろいろな場面で使ってみる。 ・自分の身体を思ったように動かすことを楽しむ。手・指活動が巧みになる。 ・生活で必要なことばを理解し、保育者や友だちとことばで交流したり、行動で表現したりする。	・保育者や友だちと一緒に遊びながら、つなびを広げ集めていく。 ・自分のイメージを、動きやことばを用いた方法で表現し、いろいろな素材を組み合わせてみる。 ・ものごとを探求することへの喜びを感じる。 ・身近な社会や自然の事象に興味や関心を持ち、豊かな感性を身に付ける。 ・自分の思いを伝え、相手の思いもわかり、気持ちをコントロールしようとする。	・保育者や友だちの話を聞き、内容を理解したり、自分の気持ちを伝えようとするようになる。 ・友だちと意見を話し合いながら、遊びの幅を広げていく。 ・生活や遊びの中で、同じ目的に向かって力を合わせて遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分のイメージを動かすことなどで、より多様な表現を試みる。 ・ものごとを探求することへの喜びを感じる。 ・身近な社会や自然の事象に興味や関心を持ち、豊かな感性を身に付ける。 ・自分の思いを伝え、相手の思いもわかり、気持ちをコントロールしようとする。	・幼稚園・保育所等の生活に近い活動を取り入れることで、活動が過剰すぎることがなくなる。 ・生活の中で、気付いたことやできるようにしたことばを使い、考えたり、試行錯誤して表現したりする。 ・気付いたことばを、先生や友だちに知らせたり、伝えたり、説明したりすることができるようになる。 ・ものや事象に対して、一人でじっくり活動し、違いを比較したり組み合わせて表現したりしながら考える。 ・見たり聞いたりした友だちの活動を、自分の活動に生かすことができる。	・かが遊び、かが遊びが展開した遊び、表現遊び、まちたんけん、いきものさがし、お店屋さん など
具体的な活動例	・わらわらた ・道具の操作あそび (ポットンおとしなど)	・水、砂、土あそび ・ままごとあそび ・運動あそび	・色水あそび ・役割あそび ・自然物あつめ (どんぐりやなど)	・氷あそび ・泥だんごづくり ・造形あそび	・光あそび ・斜面あそび ・構成あそび	・舟づくり ・音あそび ・劇あそび		
援助・配慮留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことに対して共感し、じっくりと考えられる雰囲気づくりをする。 2. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 3. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 4. 好奇心を深められるような環境構成(準備)をし、子どもの発想やアイデアが生かされるように臨機応変に対応する。 5. 必要なものをタイムリよく提供できるように、子どもの興味に沿った環境を整えていく。 6. 発見がふたつある豊かな環境を設定し、安心して試行錯誤ができるようにする。 7. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 8. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 9. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 10. 子どもが不思議だと思ったり疑問に思うことばや疑問に「つぶやき」に気づく。 							

令和6年度以降に向けて

みづまるキッズプラン（3か年計画）において、各校園所の教職員や子どもたちとともにカリキュラムの試行を重ねてきたことにより、子どもたち一人一人の成長につながる様々な成果を得ることができましたが、それと同時に、今後に向けた課題も見えてきました。

今後、各校園所において「みづまるキッズカリキュラム」が確実に実施され、みづまるキッズを育てていくためには、3年間の取組で得られた様々な成果と課題を、令和6年度以降につなげていかなければなりません。みづまるキッズ保育・教育ビジョンが掲げるめざす子ども像と、実現するためにつけたい3つの力（自己表現力、課題探究力、社会参画力）について、各校園所の教職員間で共通認識を図り、これまでの取組の継続と検証を行いながら、P D C Aサイクルに基づく改善が必要となります。

令和6年度からは、策定委員会に代わり、島本町小中一貫教育推進協議会及び島本町保幼小連携推進協議会において、各校園所における「みづまるキッズカリキュラム」の実施状況や具体的な実践の内容について、交流と検証を行います。また、小学3年生から中学生における実践の在り方についても議論を進めていきます。

1 評価・改善方法

みづまるキッズプランは、3か年計画としては終了となりますが、令和6年度を、この3年間の踏まえた「新たなスタート」と位置付けて、取組の継続と現状の把握・評価を行い、更なる改善を図っていく必要があります。

取組の評価・改善方法については、策定委員会において作成した小学校低学年から中学生までの「みづまるキッズアンケート」を定期的実施し、経年比較を行いながら、成果と課題について検証していきます。また、「みづまるキッズアンケート」と、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙及びすくすくウォッチの児童アンケートにおける見えない学力に関わる項目とクロス集計を行い、経年変化を追うとともに、大阪府及び全国の結果との比較・検証も行います。

これらの回答結果を積み重ね、長期的な視点から取組の成果について分析し、現状の把握と課題の特定を行います。子どもたちの姿や各校園所の実態を適切に把握することにより、みづまるキッズを育てるために必要な保育・教育活動の更なる改善につなげていきます。

質 問	回 答
すすんで学習に取り組んでいる	① ② ③ ④ ⑤
わからないがあっても、あきらめずに取り組むことができる	① ② ③ ④ ⑤
しゅくだいをする時間やじゅんばんは自分でできている	① ② ③ ④ ⑤
友だちと協力してべんきょうしたり、いっしょにあそんだりできる	① ② ③ ④ ⑤
自分なりの考えをもってべんきょうしたりあそんだりしている	① ② ③ ④ ⑤
自分の考えを人に伝えることができる	① ② ③ ④ ⑤
いろいろなものを見て、「なぜかな？」と思うことがある	① ② ③ ④ ⑤



「みづまるキッズアンケート」
小学校低学年用（※資料5）

(1) みづまるキッズアンケート項目

- 1 すすんで学習に取り組んでいる（共通）
- 2 わからないことがあっても、粘り強く取り組むことができる（中学年～中学校）
わからないことがあっても、あきらめずに取り組むことができる（低学年）
- 3 計画を立てて学習に取り組んでいる（中学年～中学校）
宿題をする時間や順番は自分で決めている（低学年）
- 4 友だちと協力して課題に取り組むことができる（中学年～中学校）
友だちと協力して勉強したり、いっしょに遊んだりできる（低学年）
- 5 自分なりの考えをもって学習に取り組んでいる（中学年～中学校）
自分なりの考えをもって勉強したり遊んだりしている（低学年）
- 6 自分の考えを人に伝えることができる（共通）
- 7 自ら課題を見つけ、解決に向けて取り組むことができる（中学校）
自ら課題を見つけることができる（中学年～高学年）
いろいろなものを見て、「なぜかな？」と思うことがある（低学年）

(2) みづまるキッズアンケートとの関連項目

【全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙】

- ・学校に行くのは楽しいと思いますか
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

【すくすくウォッチ児童質問紙】

- ・難しいことがあっても、あきらめない
- ・自分と違う人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているかわかろうとする
- ・つらい気持ちになることがあったときは、態度や表情に出す
- ・はっきりした明快な答えが出るまでずっと考える
- ・予期しない出来事が起きたとき、原因がわかるまで調べる
- ・自分の考えを積極的に発信している
- ・課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている

2 子どもたちの成長のために

「みづまるキッズカリキュラム」は、子どもたちが身の回りの事象や学習課題を「自分事」として捉え、必然性のある遊びや学びを意識した環境設定を大切にしていきます。また、カリキュラムに基づいた保育・教育活動を実施する際には、子どもたちに主導権を渡します。子どもたちが獲得する知識が、受け身的なものではなく、学びに対する意欲や関心を高めるためにも、教職員は子どもの活動を丁寧に見守り、気づきを記録していきます。

また、みづまるキッズを育むためには、各校園所の教職員間で共通認識を図るだけでなく、家庭や地域との共有も大切です。「みづまるキッズカリキュラム」に基づく保育・教育活動の取組を、公開保育や公開授業等を通して保護者や地域住民とも共有していくとともに、協働して子どもたちの成長を見守っていきます。

令和6年度 小中一貫教育推進協議会
 【みづまるキッズプランに係る取組会議 スケジュール】

年間6回実施（主に第3,4木曜日）			
回	日時	内容	会場
1	4月18日(木) 16:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・みづまるキッズプランについて ・みづまるキッズプランを実現するための3つの力について ・その他 	二小
2	5月23日(木) 16:00～17:00	実践交流及び意見交流会(1) 「総合とみづまるキッズプランを繋ぐ」 <ul style="list-style-type: none"> ・各校園所から、参加者を広く募り、ワークショップ形式で実施 	二小
3	7月25日(木) 16:00～17:00	実践交流及び意見交流会(2) (詳細未定) <ul style="list-style-type: none"> ・各校園所から、参加者を広く募り、ワークショップ形式で実施 	二小
4	10月24日(木) 16:00～17:00	実践交流及び意見交流会(3) (詳細未定) <ul style="list-style-type: none"> ・各校園所から、参加者を広く募り、ワークショップ形式で実施 	二小
5	12月19日(木) 16:00～17:00	実践交流及び意見交流会(4) (詳細未定) <ul style="list-style-type: none"> ・各校園所から、参加者を広く募り、ワークショップ形式で実施 	二小
6	2月20日(木) 16:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・年間総括 ・各校園所の実践記録の提出？ ・本協議会としての「成果物」を確認 ・効果検証 ・その他 	二小